

政策体系	基本目標名	2	新たな流れの創造による賑わうまちづくり	施策主管課長	文化立市推進課
	政策名	3	歴史・文化を守り育てるまちづくり		
	施策名	1	文化芸術活動の推進		
施策関係課					上岡 幸宏

1. 施策の目的と成果把握

施策の目的「対象」	この施策は、誰、何を対象としているか	対象指標				単位	H30	R1	R2	成果指標設定の考え方		
	①市民 ②文化芸術活動団体 ③文化芸術施設	①市の人口 ②市内の文化芸術活動団体登録数 ③市内の文化芸術施設数(市立) ④	人 団体 館	119,348 110 3	118,450 106 3						文化芸術は、豊かな感性を養うとともに、世代を超えて感動や安らぎを与えてくれるなど、心豊かな社会を形成する上で重要な役割を持っていることから、 ①より一層文化芸術活動の活性化を図る必要があり、そのためには市民自らが参加・活動する機会を充実させることにより達成できると考え、何らかの文化芸術活動を行ったり、鑑賞している人の割合を増加させることを成果指標に設定した。 ②文化芸術活動団体が活発に活動している状態とは、文化祭等への参加している団体数により把握できると考え、成果指標に設定した。 ③文化芸術活動の推進には、活動の拠点となる施設が不可欠であり、施設利用者の満足度が高い状態が望ましいと考え、成果指標に設定した。	
施策の目的「意図」	この施策によって、「対象」をどういう状態にするのか	成果指標(意図の達成度を表す指標)				区分	単位	H30	R1	R2		R3
	①文化芸術活動が活性化している ②団体が活発に活動している ③施設利用者の満足度が高い	①何らかの文化活動を行うか、美術館等での講演・展示会などに参加・鑑賞している人の割合 ②文化祭等への参加団体数 ③施設利用者の満足度が高い割合 ④ ⑤	目標実績 目標実績 目標実績 目標実績 目標実績	% 団体 %	54.7 52.2 97 83 70.0 84.6	55.7 51.2 98 107 70.5 85.7	56.7 99 71.0	57.7 100 72.0				① 市政に関するアンケート ② 文化立市推進課資料 ③ 各施設利用者からのアンケート ④ ⑤

2. 基本事業の目的と成果把握

基本事業名	対象	意図	成果指標	区分	単位	H30	R1	R2	R3	基本事業名	対象	意図	成果指標	区分	単位	H30	R1	R2	R3
文化芸術活動の推進	①市民 ②児童生徒 ③天明鋳物	①、②文化芸術に触れ、親しみ、参加・体験する機会を拡充する ③特色ある地域資源の有効活用を図る	①文化会館、あくとプラザ利用者数	目標実績	人	195,000 202,289	196,000 179,073	197,000	198,000	文化芸術活動団体との連携・支援	①文化協会 ②郷土芸能保存会連絡協議会	文化芸術・伝統芸能の核となる団体の充実を図る	①文化芸術活動団体登録数	目標実績	団体	112 110	112 107	114	114
			②アウトリーチ事業等を実施した小学校数	目標実績	校	13 10	13 20	14	15				②文化祭等入場者数	目標実績	人	17,700 14,130	17,700 12,621	17,800	17,800
			③吉澤記念美術館入場者数	目標実績	人	8,100 8,127	8,100 3,353	8,200	8,200				③伝統芸能の発表の場への参加団体数	目標実績	団体	10 7	10 4	11	12
			④天明鋳物フェイスブックアクセス数	目標実績	件	155,200 51,739	155,500 20,320	155,800	156,000				①施設利用者の満足度が高い割合	目標実績	%	70.0 84.6	70.5 85.7	71.0	72.0
			②	目標実績									②施設利用者の満足度が高い割合	目標実績					

3. 施策及び基本事業の目標達成度評価

施策	令和元年度施策の取組方針				施策の取組方針・成果指標達成状況			
	<ul style="list-style-type: none"> 市民が安心安全に文化会館を利用できるよう、各種の維持補修を行うとともに、経年劣化しているトイレを洋式化することで、利用者の利便性の向上を図る。 今後の文化芸術活動や伝統芸能の継承者となる可能性の高い子どもたちへ、アウトリーチ事業等を継続して実施する。 ルネッサンス鑄金展の大賞作品展や親善都市である芦屋町の文化交流企画展を開催する。また天明鋳物の歴史や作品の展示、鋳物づくりが体験できるような拠点施設の整備に向け検討を始める。 近隣自治体等との連携により、それぞれが持つ特徴的な文化資源を活用し、交流人口・定住人口の拡大、地域の活性化をめざす。 				<ul style="list-style-type: none"> 【施策の取組方針達成状況】 文化会館のトイレ洋式化工事は予定どおり改修終了し、利用者からは、きれいで快適になったと言われている。 小学校20校で、音楽やフレスコ画、演劇等アウトリーチ事業を実施した。 ルネッサンス鑄金展大賞作品展を東京芸大で開催。また、本市と芦屋町の鑄物事業者の作品展を市内及び芦屋町でそれぞれ開催し、天明鋳物を全国へPRした。 天明鋳物の拠点施設整備については、多額の費用、時間がかかることから、まずは公共施設やまちなかの空き店舗等を活用し、歴史や作品の展示をしていく方向となった。 栃木市との連携による文化資源を活用した「R293アートツアー」は、募集後、令和元年東日本台風とコロナウイルスの影響により、中止となった。 【成果指標達成状況】 文化芸術活動に関する市政アンケートは51.2%であり目標を下回った。文化祭等への参加団体数及び施設利用者の満足度については、目標値を超える結果となった。 			
基本事業	令和元年度基本事業の取組方針				基本事業の取組方針・成果指標達成状況			
	<ul style="list-style-type: none"> 近隣自治体や大学等との連携を図り、首都圏住民を対象に、吉澤記念美術館等、国道293号線沿線の特色ある文化芸術施設をめぐるツアーを開催することで、交流人口・定住人口の拡大や地域の活性化をめざす。 地元ゆかりのアーティストが小学校を訪問し、ミニコンサートや楽器の体験指導等の「アウトリーチ事業」を行うことで、児童の文化芸術の普及・啓発を図る。 「西の芦屋に東の天明」と全国に名を馳せた天明鋳物。佐野と芦屋で相互展示会を開催し、改めて天明鋳物の技、水準の高さの再認識とPRを図る。また天明鋳物に特化した拠点施設の設置に向け検討を始める。 				<ul style="list-style-type: none"> 【基本事業の取組方針達成状況】 栃木市、文星芸大、JTBと連携し、大型バス1台によるアートツアーを企画、募集したが、令和元年東日本台風等の影響により中止となった。 延べ20校で音楽や墨絵等アウトリーチ事業を実施し、児童への文化芸術の普及を図った。 鑄金展の大賞作品展、本市と芦屋町の鑄物師の作品展をそれぞれの市町で開催するなど、広く天明鋳物をPRした。 天明鋳物の歴史や作品の展示、鑄物づくりの体験ができるような、保存、継承、育成等総合的な鑄物拠点施設については、多額の費用や時間がかかることから、既存の公共施設やまちなかの空き店舗等を活用することとなった。 【成果指標達成状況】 アウトリーチ事業等は20校が実施し目標を達成したが、文化施設、吉澤記念美術館の入館者数は令和元年東日本台風と新型コロナウイルスの影響により達成しなかった。また、天明鋳物のフェイスブックについてもアクセス数が減少した。 			
基本事業	令和元年度基本事業の取組方針				基本事業の取組方針・成果指標達成状況			
	<ul style="list-style-type: none"> 市内の文化芸術活動を担う様々な団体の中核となる文化協会との連携・支援により、さらなる文化芸術の振興をめざす。 本市を代表する伝統芸能であり、栃木県無形民俗文化財に指定されている牧歌舞伎について、次世代の子どもたちへ継承していくため、団体の活動を支援する。 				<ul style="list-style-type: none"> 【基本事業の取組方針達成状況】 春、秋の市民文化祭への協力、両毛5市文化協会、県南文化協会、栃木県文化協会の各事業への協力等実施した。 牧歌舞伎は2年に1回の地元開催の年であったが、令和元年東日本台風の影響により中止せざるを得なかった。 【成果指標達成状況】 団体の登録数の増加については、指標を達成することはできなかった。 			

4. 施策の基本情報

施策の基本情報	社会情勢変化、国・県の動向、市民・議会意見等		施策の成果向上に向けての役割分担	
	<ul style="list-style-type: none"> 2021年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会はスポーツの祭典であると同時に、文化の祭典でもあり、日本の文化の魅力を発信する予定である。栃木県においても、これを契機に文化芸術の更なる振興を図るとともに、文化による地域活性化を図ることとしている。 文化芸術は魅力ある観光資源として注目されており、国内外へ発信するに当たっては、地域の特色ある文化芸術資源の活用を図ることが期待されている。また、文化芸術活動は、経済の活性化につながる側面も有しており、文化芸術が新たな需要を掘り起こし、地域経済を活性化させる効果があるとされている。 新型コロナウイルスの影響で多くの文化活動が中止を余儀なくされているが、日本では海外に比べ文化の担い手への支援が手薄だと言われている。(国) 天明鋳物を活用したまちづくりの要望が出ている。(市議会、市民) 公共施設のトイレ洋式化、バリアフリー化の要望が出ている。(市議会、市民団体) 伊藤若冲「菜蟲譜」を定期的に公開して欲しいとの要望が出ている。(市民) 		<ul style="list-style-type: none"> 市民文化の主体は市民自身であり、市民一人ひとりが積極的に文化芸術に触れ、活動することが求められる。 文化芸術団体は、文化祭等を通して文化芸術活動に関わりを持っており、これまでの取組を継続することや、郷土芸能を次の世代へ継承することが期待される。 	
施策の基本情報	市民		事業所	
	<ul style="list-style-type: none"> 市民文化の主体は市民自身であり、市民一人ひとりが積極的に文化芸術に触れ、活動することが求められる。 		<ul style="list-style-type: none"> 地域の一人であることを自覚し、地域の文化芸術活動への支援や民間の持つノウハウを提供するなど、さらなる協力体制が求められる。 	
施策の基本情報	行政		事業所	
	<ul style="list-style-type: none"> 文化芸術の鑑賞機会や活動の場を提供する。 文化芸術活動を担う市民(特に次代を担う子どもたち)や団体の育成を図る。 社会情勢の変化に対応しつつ、様々な分野の、市民の文化芸術活動を支援する。 		<ul style="list-style-type: none"> 文化芸術の鑑賞機会や活動の場を提供する。 文化芸術活動を担う市民(特に次代を担う子どもたち)や団体の育成を図る。 社会情勢の変化に対応しつつ、様々な分野の、市民の文化芸術活動を支援する。 	

5. 施策全体の総括・今後の課題・今後の方向性

施策の成果実績と施策の基本情報及び施策コストに関する全体総括	今後の課題	今後の方向性
<ul style="list-style-type: none"> 【文化芸術活動の活性化】 何らかの文化活動を行うか、講演・展示会などに参加・鑑賞している人の割合が51.2%と前年を1%下回る結果となった。理由としては、時間がない、きっかけがない、お金がかかる等、一般的に言われる。身近で関心が持てるような事業を継続して実施していくことが重要である。 アウトリーチ事業等を延べ20校で実施し、児童への文化芸術の普及を図った。 鑄金展の大賞作品展を東京芸大で開催。また、本市と芦屋町の鑄物師の作品展をそれぞれの市町で開催するなど、天明鋳物を全国へPRした。また、天明鋳物の歴史や作品の展示、鑄物づくりの体験ができるような、総合的な鑄物拠点施設については、多額の費用や時間がかかることから、まずは既存の公共施設やまちなかの空き店舗等を活用する方向となった。 【文化芸術団体の活発な活動】 文化芸術活動団体登録数が減少傾向にある。会員の高齢化のほか、核家族化、地域コミュニティの衰退化等が影響していると思われる。新たな会員の確保や会員自らが積極的に文化活動ができるよう、団体への支援が引き続き必要である。 【施設利用者の満足度】 文化会館、あくとプラザ、吉澤記念美術館では、利用者からの満足度は高い結果となっている。しかし、施設の利用者が進んでおり、保全のための改修が必要であるが、施設・設備の特殊性から維持管理に多額の費用がかかることが課題である。 【コスト】 施策全体の決算額は令和元年度は約2億円、平成30年度は約1億8千400万、約1,600万の増であった。主な要因としては、文化会館のトイレ洋式化工事によるものである。 	<ul style="list-style-type: none"> 【令和2年度で解決する課題】 特になし 【令和3年度以降にも引き継がれる課題】 ①文化芸術活動の活性化のためには、鑑賞・体験など「文化芸術に親しむ機会の提供」が課題である。 ②文化芸術活動の主体は民間団体が担っており、「民間団体への活動の支援と事業の連携」が課題である。 ③文化イベントは、3月以降中止・延期が相次いでおり、今後「新型コロナウイルスへの対応」が課題である。 【令和3年度重点課題】 ④近年、魅力ある観光資源や経済の活性化にもつながると言われている「特色ある文化資源の活用」が重点課題である。 ⑤文化会館は41年、あくとプラザは22年、吉澤記念美術館は18年が経過し、適切な維持管理とともに「文化芸術施設の長寿命化」が重点課題となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ①文化芸術に関心を持ち、活動に参加しやすい環境づくりが重要であり、特に、次代を担う子どもたちのために、本物の文化芸術に触れ、体験できる機会の提供を引き続き進めていく。 ②文化協会や文化振興事業団等の民間団体と相互に連携し、民間活力を取り入れ「オール佐野」で文化芸術の振興を図っていく。また、事業団は独自の文化活動を行っているが、組織体制が脆弱であり、自立化に向けて積極的に支援する。 ③新しい生活様式の中、感染防止対策を徹底したうえで、施設の管理や各種事業を展開していく。 ④本市の代表的な文化資源である天明鋳物について、商標登録化を目指し、ブランド力の向上等、鑄物のまちづくりを進め、交流人口、関係人口の増加へつなげていく。また吉澤記念美術館では、菓蟲譜や葛生特産の石灰に関連したフレスコ画等、地域の特色ある文化資源を活用して、入館者の増加、文化芸術の振興を図る。 ⑤文化会館は、今年度実施のPFI導入可能性調査の結果を基に、スケジュールを作成し、具体的な準備を進めていく。 吉澤記念美術館は、展示照明用電球が生産中止となっており、LED照明化に向けて調査・検討を始める。